

丸紅欧州会社
国際調査チーム 松原 弘行

欧州議会～選挙すう勢、その他の話題

Brexit のおかげで、今回の欧州議会選挙は今まで以上に日本でも注目されているのではないだろうか。今回はその欧州議会選挙について、まず議会・選挙の概要と、主な話題、英仏独伊ハンガリーでの選挙のすう勢についてお伝えしたい。

（右写真はブリュッセルの欧州議会。筆者撮影）



1. 欧州議会選挙のしくみ

始めに欧州議会の果たす役割（権限）について確認する。欧州議会は、5億1千万人のEU市民の代表が直接選挙で選出される唯一の機関で、欧州委員会委員長の選出で鍵となる役割を担う。さらに、欧州連合理事会（各国担当閣僚会合）と共に、EU予算や立法に関する権限を行使する。

選挙は1979年から5年ごとに行われ、議員は加盟国がそれぞれ定める¹比例代表・普通選挙形式で選出される。身近な行政問題と関係しない上に、投票率も低い²ため、有権者の本音（主義・信条）が影響しやすいと言われる。今回の選挙は5月23～26日に投票が行われ、26日には結果が公表される。各国の定数は下の表のとおり。

各国の議席数配分（出所：欧州議会データを基に欧州会社作成）

加盟国	議席数		加盟国	議席数		加盟国	議席数	
	Brexitなし	Brexit後		Brexitなし	Brexit後		Brexitなし	Brexit後
ドイツ	96	96	ハンガリー	21	21	クロアチア	11	12
フランス	74	79	ポルトガル	21	21	ラトビア	8	8
イタリア	73	76	スウェーデン	20	21	スロベニア	8	8
スペイン	54	59	オーストリア	18	19	キプロス	6	6
ポーランド	51	52	ブルガリア	17	17	エストニア	6	7
ルーマニア	32	33	フィンランド	13	14	ルクセンブルク	6	6
オランダ	26	29	デンマーク	13	14	マルタ	6	6
ベルギー	21	21	スロバキア	13	14	イギリス	73	0
チェコ	21	21	アイルランド	11	13	合計	751	705
ギリシャ	21	21	リトアニア	11	11			

¹ 以下の3点の大原則のみが決まっている（出所：Wikipedia）：

- ・政党名簿または単記移譲のいずれかによる比例代表制
- ・比例代表制の性質に影響しない限りにおける、複数の選挙区の設定
- ・5%を超えない限りでの最低得票率の設定

² 投票率は、1979年第1回直接選挙（9か国）の61.99%以降、1984年（10か国）58.98%、1989年（12か国）58.41%、1994年（12か国）56.67%、1999年（15か国）49.51%、2004年（25か国）45.47%、2009年（27か国）43.0%、2014年（28か国）43.09%と低下を続けている。

英国メイ首相は選挙を行わずに離脱することを目指していたため、Brexitの展開次第では土壇場で各国の枠が変わる可能性があり、EU側各国、特に各候補者にとって非常に迷惑だったろう。「腰掛け」気分³の英国選出議員をEUの重要な意思決定に参画させてよいのか、という懸念もある。さらに、委員長の選任にあたっては、議会の議席バランスを配慮することになっている（後述）ため、Brexitによって各国の枠が変わったり、いったん選出された英国議員が抜けると最大会派が変わったりする（選出されるべき委員長が変わる）可能性もあり、EU側にとってはBrexitはいろいろと甚だ迷惑な話である。

欧州議会自身が先日発表した各党の議席数予想は下表のとおり（英国選出分の議席数を含む）。

現在の党派別議席数と欧州議会発表の議席数予想

各国における政党				欧州議会における8党派と議席数			
英	独	仏	伊	党派名	代表者	2019年4月 議員数	2019年選挙 獲得議席予想
	CDU/CSU	国民運動連合		欧州人民党グループ (EPP)	Manfred Weber (独)	217	180
労働党	SPD	社会党	民主党	社会民主進歩同盟グループ (S&D)	Udo Bullmann (独)	186	149
保守党				欧州保守改革グループ (ECR)	Syed Kamall (英) Ryszard Regutko (ポーランド)	76	66
自由民主党	自由民主党 (FDP)			欧州自由民主同盟グループ (ALDE)	Guy Verhofstadt (ベルギー)	68	76
	左翼党	共産党		欧州統一左派・北方緑の左派同盟 グループ(GUE-NGL)	Gabi Zimmer (独)	52	46
緑の党、 スコットランド 国民党	緑の党	ヨーロッパ・ エコロジー = 緑の党		欧州緑グループ・欧州自由連盟 (Greens-EFA)	Ska Keller (独) Philippe Lamberts (ベルギー)	52	57
英国独立党 (UKIP)	ドイツのため の選択肢 (AfD)		五つ星運動	自由と直接民主主義のヨーロッパ (EFDD)	Nigel Farage (英)	41	45
		国民連合	同盟	国家と自由の欧州 (ENF)	Nicolas Bay (仏) Marcel de Graaff (オランダ)	37	62
				無所属		21	70
				合計		750	751

（出所：欧州議会、Wikipedia 等各種情報を基に欧州会社作成）

それによれば、これまで実質的大連立を組んでいた中道右派の欧州人民党グループ EPP（ドイツ CDU/CSU ら。予想 180 議席）と中道左派の社会民主進歩同盟グループ S&D（英労働党、ドイツ SPD、イタリア民主党ら。予想 149 議席）を合わせても大きく過半数を割り込んでいる点が、委員長選出や議会運営の点において注目されている。

³ ただし、EU のトウスク大統領は 4 月 16 日、英国が Brexit を思いとどまることへの希望をちらつかせ、欧州議会選挙で選ばれた英国の議員は数か月以上にわたり議席にとどまる可能性があるとの見方を示している。

2. 主要ポストが今年一気に交代。ポストを主要国がパッケージで交渉する見込み

上記の欧州委員会委員長に加え、欧州理事会議長（大統領）や欧州中央銀行（ECB）総裁も今秋に任期切れする。

- 欧州委員会・ユンケル委員長 : 10月まで（任期5年。再任可）
- 欧州理事会・トゥスク議長（大統領） : 11月まで（任期2年半×最長2回）
- 欧州議会・タイヤーニ議長 : 6月まで（任期2年半）
- ECB・ドラギ総裁 : 10月まで（後任任期 ~2027年）

委員長については、もしEPPが予想どおり第1党（予想180議席）となれば、同党が担ぐドイツのマンフレッド・ウェーバー氏が有力な次期委員長候補である。他方もし、ハンガリーの「フィデス」がEPPを離脱する等の状況によって、S&D（予想149議席）がトップになった場合は、同党のティーマンス氏（オランダ）が委員長候補となる。ただし、委員長を第1党から選ばねばならないという明文規定があるわけではなく、実際にフランスのマクロン大統領はそうした運用に強く異を唱えている。

政治の世界で「派閥均衡」「女性閣僚数」のようなバランス感覚が求められるのはEUにおいても同じなようで、今回のように主要ポストが一気に交代する場合は、ポストの割り振りはパッケージで検討される見込みである。5月10日の時事通信報道では、主要ポストの後任人事についてトゥスク大統領が非公式首脳会議後の記者会見で、「首脳会議において（パッケージで）6月に指名するつもりだ」と表明した。迅速な決定を重視し、全会一致での合意が難しい場合は「採決で決めることも辞さない」と強調したそうだ。

それぞれのポジションにどのような候補者がいて、各国にどのような思惑があるのかはここでは省くが⁴、退任が予定されているドイツのメルケル首相や、Brexitのバルニエ交渉官（フランス）の名前も挙がっている。

有力な次期委員長候補であるウェーバー氏は、南ドイツ・バイエルン州の出身で、同州を拠点にするキリスト教社会同盟（CSU）及び欧州人民党に所属する。2003年から2007年までバイエルン青年同盟地域評議会議長。2002年から2004年までバイエルン州議会議員。2004年から欧州議会議員。2009年に欧州人民党グループ副議長、2014年から同・議長に就任。2015年からCSU副党首である。

ただし、地元ドイツでもウェーバー氏の知名度はまだ低く、同氏を知っているとするのはドイツ人の4人に1人（26%）に過ぎないとされる。（出所：Politico 4月24日）。

そのウェーバー氏の掲げる公約⁵は、次の12点である。

- ① 2022年までにEU国境警備隊1万人を配備
- ② テロ対策に欧州版FBIを創設
- ③ トルコとの関係緊密化協議の停止

⁴ 第一生命経済研究所 EU Trends / マクロ経済分析レポート（2019年5月13日）
「EU再建のドリーム・チーム～EUの主要3ポストは誰の手に？～」
<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/macro/2019/tanaka190513eu.pdf>
に詳しく書かれているので、ご興味があればご参照いただきたい。

⁵ https://www.politico.eu/wp-content/uploads/2019/04/Weber_12-points.pdf?utm_source=POLITICO.EU&utm_campaign=f5c3c65a93-EMAIL_CAMPAIGN_2019_04_23_04_48&utm_medium=email&utm_term=0_10959edeb5-f5c3c65a93-190430973

- ④ 新たな司法制度の創設
- ⑤ がんに対する EU 総合計画策定
- ⑥ 高齢者向けスマート住宅の普及
- ⑦ 500 万人の若者向け雇用創出
- ⑧ 時代遅れとなった 1,000 件の規制廃止
- ⑨ 工場労働者向けデジタル化移行基金の創設
- ⑩ 若年世帯向け住宅ローンの拡充
- ⑪ 児童労働禁止を全世界で徹底
- ⑫ 使い捨てプラスチック禁止を全世界で徹底

加えて、4月23日付のポーランドのポルスカ・タイムズ紙の報道を伝える記事（ワルシャワ・ロイター時事）によると、ウェーバー氏は同紙の取材に対し、自身が EU の委員長になった場合、ロシアが進めるガスパイプライン事業「ノルドストリーム 2」の建設を阻止する意向を明らかにした。同氏のこの姿勢は、経済的利益の観点からノルドストリーム 2 建設を支持するドイツ政府とは異なるが、「このプロジェクトに反対だ。EU の利益にならない」「私はドイツ人の欧州委員長候補ではなく、EPP の候補だ」と述べ、「欧州委員会の長として適用可能なあらゆる法律を駆使してノルドストリーム 2 を阻止する」との姿勢を示した、という。もしノルドストリーム 2 が実現できないことになれば、ドイツの脱原発政策・脱石炭政策に大きな影響が出る可能性があるだろう。

3. 駐イタリア・フランス大使の召還問題に見る欧州議会選挙戦

2月7日、フランス政府は、イタリア副首相が「黄色いベスト運動」のデモ参加者に面会したことに対し、駐イタリア大使を召還すると発表した。フランス政府は「戦後、前例のないことだ」と反発し⁶、大戦で戦った隣国同士の外交問題は日本でも大きく報じられた。

なぜこのようなことが起きたのかも、欧州議会選挙を理解するとわかりやすいと思われる。

今回の騒動は、イタリアのルイジ・ディマイオ副首相がパリ近くで5日に「黄色いベスト運動」の幹部であるクリストフ・シャランソン氏や欧州議会選挙に出馬する予定の活動家たちと面会し、集合写真と共に「変化の風はアルプスを越えた」等とツイートしたことが直接の発端である。イタリアでディマイオ氏の率いる連立与党「五つ星運動」の連立パートナーである右翼政党「同盟」は、欧州議会ではフランスの「国民連合（旧：国民戦線）」と同じグループに属している（上表）。

国民連合のル・ペン党首は先のフランス大統領選挙でマクロン大統領と決選投票を戦っており、同国における反マクロンのシンボルとなっている。反グローバリズムを掲げるル・ペン氏は欧州議会選挙ではイタリア系の若手を筆頭候補に抜擢しているそうである（パリ支店からの情報）。そういう背景下で「五つ星運動」のディマイオ党首が、自分の連立パートナーの敵の敵である「黄色いベスト運動」の幹部は自分の味方だ、と SNS 上で宣伝したのだと思われる。

このように、今回の騒動は、日本のメディアが報じていたような大国対大国の歴史的な外交問題というよりは、国境をまたいだ政党間の選挙活動の場外乱闘の側面が強いと考えると、状況がよく理解できそうだ。フランス外務省の声明でも「意見の相違はさることながら、選挙目的に

⁶ 在日フランス大使館「フランスがイタリア駐在大使を召還」（最終更新 2019 年 2 月 14 日）
<https://jp.ambafrance.org/article14194>

関係を悪用するのは別の話だ」と批判したとのことである⁷。2月15日、フランスのロワゾー欧州問題担当相（当時）が、召還した駐イタリア大使が同日ローマに戻ることを明らかにしている。短期間で帰任が実現したことからも、やはり国対国の対立をエスカレートさせる気はなく、欧州議会選挙戦を意識した対応だったと想像される。

4. 各国選挙戦の現在のすう勢

① イギリス

メイ首相は欧州議会選挙への参加を避けるため、早期の離脱実現を目指していたが、4月26日のブルームバーグ報道が「メイ首相がEU離脱協定法案を来週議会に提出できなければ、欧州議会選挙への参加を受け入れざるを得ないと、政府当局者が述べた」と伝えていたように、英国国内では欧州議会選挙への準備が進んでいる。

英国で有権者登録を呼びかけるチラシ

EUROPEAN ELECTIONS
23rd May 2019

Who can vote in the European Elections in the UK?

British, EU27 and Commonwealth citizens resident in the UK can vote.

Have your say on Europe
REGISTER NOW

Registration Deadline
7th May 2019

Promoted by Matthew Harrison, PO Box 1554, Kingston Upon Thames, KT1 9ZP
Printed by Solopress, 9 Stock Rd, Southam, Oxon, RG45 2JF

欧州議会英国代表部が英国内のEU市民に有権者登録を呼びかける筆者宛のダイレクトメール（「生まれ来る子どもたちのために」がキーマッセージ）

Hi Hiroyuki,

We started this campaign together to help democracy by increasing participation in the European elections on 23rd May. Our new campaign video will inspire everyone to vote. Now share it with friends and family to spread our message.

Remember that your help spreading the video is key. We have to reach 500 million Europeans and we cannot do it without you. With your help we can create a snowball effect, and make sure we reach as many people around Europe as possible about the importance of these elections.

You joined this campaign because you know the European elections on 23rd May are perhaps the most important elections in recent history. The stakes could not be higher.

Voting in the European elections isn't just an opportunity to choose our future, it also sends message of hope and responsibility, and the biggest act of hope in the future is bringing a child into this world.

These children in our video are European and they will inherit our decisions. These choices leave our own mark on the world, but together we can make a real difference. And that's why we vote!

Share the video in your own words. Explain why you think voting is important to your friends and make a real impact.

Thanks again,
Sam

[f](https://www.facebook.com/thistimeimvoting) [t](https://twitter.com/thistimeimvoting) [i](https://www.instagram.com/thistimeimvoting)

thistimeimvoting.eu

こうした中、Brexitという争点をめぐっては離脱派がかなり優勢である。「保守党」の強硬派らに近く2016年の国民投票での離脱派勝利に大きく貢献したとされるファラージ氏（UKIP元党首）は新党「Brexit党」を率いて出馬すると早々に宣言し、「離脱を救うための反撃が始まった」と氣勢を上げていた。4月半ばに行なわれた世論調査（YouGov）では、そのBrexit党の支持率がトップで27%、Brexitを主張する「英国統一党（UKIP）」も7%、「保守党」が15%と、離脱派が過半に迫っている（これに対し、「労働党」は22%）。ちなみにUKIPは前回2014年の欧州議会

⁷ BBC NEWS Japan 2019年2月8日「フランス、駐イタリア大使を召還 『黄色いベスト』が外交問題に」
<https://www.bbc.com/japanese/47167209>

選挙でも第 1 党（得票率 27.5%）であった。5 月 16 日時点のある調査でも、相変わらず「Brexit 党」の支持率がトップ（33%）である。2 位は「労働党」で 17%、「保守党」は 10%で「緑の党」と 4 位争いをしている。

このように勢いのある離脱派に対し、明確な残留派は合計しても約 3 割に留まる上、一枚岩にもなっていない。2 度目の国民投票を支持する無所属議員の集まりが、先日、他の残留派や自由民主党、緑の党とは組まずに、新政党「チェンジ UK」として選挙管理委員会に登録された。同党は、保守党ボリス・ジョンソン氏（強硬離脱派で次期首相候補とも目される。前ロンドン市長）の妹が候補者に名を連ねていることでも話題になっている（上の世論調査での支持率は 6%）。

メディアは、英国での欧州議会選挙の結果が「実質的な国民投票の再投票になる」と持ち上げているが、筆者は違うと考えている。5 月 2 日の地方選挙の際にもそうした前評判が高まったが、結果的には特段の動きにはつながっていない。16 日に参加したロンドンの大学でのセミナーでも「国民投票の代替」と説明した登壇者がいた一方で、別の登壇者はそれを否定していた：Brexit だけを争点にした選挙戦ではないので、結果はいかようにでも解釈できてしまうからだ。例えば、「保守党」の票は離脱派、「労働党」の票は残留派とステレオタイプに区分する分析が多いが、保守党支持者の離脱派が「Brexit 党」に流れたのだとすれば、残っている「保守党」の票は残留派だと解釈すべきだ、という主張が可能だろう。筆者とすれば、「EU から離脱すべき」と主張する政治家がわざわざ欧州議会の議員に立候補すること自体、自己矛盾しているように思う。

② フランス

フランス政界では伝統的な大政党（中道左派や中道右派）に仏国民が失望して支持率を大きく落としたことで、「現政権 VS 極右」という国民の二極分断が進んでいるとのことである。トランプ現象、ブラジル、イタリア、ドイツ等の影響も受け、フランスでもポピュリズム支持が上昇し、欧州議会選挙でもマクロン派と極右勢力の争いになるのではないかと、同国のラジオも懸念していた、とパリ支店から連絡を受けている。フランスの極右勢力は国外でも、デンマーク等で現地極右との「EU 独裁」に対する合同会見を行う等、地道な宣伝活動を拡大しているそうである。また、国民連合は政党名も穏便なものに変えているし、掲げた公約のうち例えば移民政策については、欧州人の安全を確保するための EU 域外との国境管理の強化、移民の欧州流入に歯止めをかけるための対アフリカ開発支援等、比較的穏健な公約も掲げたことで、中道支持層の取り込みにも成功しているのではないと思われる⁸。これに対し、マクロン派の支持率は、ノートルダム大聖堂の火災後も、伸びていない。

4 月 24 日付の POLITICO の予想では、マクロン大統領率いる「共和国前進」が 21 議席なのに対し、ル・ペン氏の率いる極右政党「国民連合（旧国民戦線）」は 20 議席と肉薄している。さらに国民連合が共和国前進の支持率をわずかに超えたとの報道（4 月 19 日）もあった。マクロン大統領が中間所得層以下を対象とした総額 50 億ユーロ規模の所得減税を行うと発表した後の 5 月 2～3 日に行なわれたある世論調査でも、「国民連合」の支持率が 22%となり、「共和国前進」の 21.5%を上回ったという。

マクロン大統領としては、フランス国内での勝ち負けもさることながら、欧州議会に EU 懐疑派が増えてしまうことで、彼が情熱を傾けている EU 改革実現に悪影響することを懸念するはずである。

⁸ この他、共和国前進の候補者である Loiseau 氏が学生時代には極右候補だったことが判明したこと等も影響している可能性がある。

なお、パリ支店裏口のある通り（現在工事中のシャネル本社もある）の投票所前に貼られている欧州議会選挙のポスター（写真提供：パリ支店・中村氏）は、下のとおり：



「国民連合」（左）は代表 2 人を並べ、メッセージも「仏市民に権限を与えよ」とクリアで分かりやすいのに対し、与党（右）は多くの候補者を登場させ、メッセージも博愛的で有権者に響きにくいのもかもしれない。

③ ドイツ

ドイツでは、欧州最多の 96 議席をめぐる選挙（拘束名簿方式比例代表制）が 26 日に実施される。当社デュッセルドルフ支店経由でご提供いただいた MUFG バンクの資料⁹によれば、ドイツから見た欧州議会選挙の注目点は次の 3 点である：

- i. 非常に明確な反 EU の立場をとる AfD の議席獲得動向
- ii. 2 大政党 CDU/CSU と SPD とが議席を大きく減らす可能性
- iii. ユンケル委員長の後任が、ドイツ人のウエーバー氏に決まるかどうか（上記）

ドイツにおいても中道の大政党は支持率が最近著しく低下している。今回の選挙では 2013 年に設立された極右ポピュリズム政党である「ドイツのための選択肢 (AfD)」が躍進するとみられている。メルケル首相も危機感をかなり強めており、各所での演説でナショナリストたちへの対抗を強く呼びかけている。

5 月 13 日のある世論調査では「ドイツキリスト教民主同盟／バイエルン・キリスト教社会同盟 (CDU/CSU)」の支持率は 29%。前回の総選挙で記録的大敗を喫した連立パートナーの「ドイツ社会民主党 (SPD)」は 16%で、「緑の党」の 18%に遅れをとっている。今回の欧州議会選挙でも「SPD」がもし大敗すれば、「CDU/CSU」と「SPD」とによるドイツ連邦政府の大連立政権がさらに不安定化する可能性がある。

「AfD」は国政選挙・地方選挙でも着実に存在感を増している（同、12%）。同党はかつて「Dexit」（ドイツの EU からの離脱）を掲げていたが、最近はそのような過激な主張は控えているようなのがかえって不気味だ。

⁹ MUFG バンク（ヨーロッパ）ドイツ支店「ドイツ掲載・政治動向月報（3月号）」2019年2月28日

④ イタリア

ミラノ支店からの情報を基にお伝えすると次のような情勢である。

イタリアの現政権は 2 つの全く異なるいわゆるポピュリスト政党の連立からなっている。しかし、これまでの EU 運営を強く否定し、それを大きく変えると言い切っているところは、この「五つ星運動」及び「同盟（旧北部同盟）」による連立与党両党の共通点である。昨春の総選挙で手に入れた政権の延命のためには協力的な両党だが、選挙は喰うか喰われるかの戦いであることをよく心得ており、欧州議会選挙投票日を前に「五つ星運動」と「同盟」間の中傷合戦がかなり激しくなっている。

反体制政党「五つ星運動」は、労働団体を支持母体とする中道左派「民主党」よりも一層の庶民派色を強く出して「左」の票を掻き集めている。他方、元来イタリア北部の自治権強化を訴えてきた右派の「同盟」は、イタリア半島南部よりも移民が問題だとして、南部批判から移民敵視に政策転換することで全国から票を集めることに成功し、強硬な態度を見世物にして強く国益を主張できる右派であることをアピールする機会が増えてきた。

これらの実態からして【極左】と【極右】と呼んだ方がいいのかと迷うほどに目立つ両党に挟まれて、いまひとつ目立たないのが過去 20 年近く政治の中心的存在だった中道右派の「フォルツァ・イタリア」と中道左派の「民主党」。インターネットや SNS が駆使される時代、極端なことを言う政治家・政党の方が目立ち人気を集めやすく、難しい問題を忍耐強く解決していくような良識ある政党は選挙で劣勢に立たされるという構図は、イタリアでも同じようだ。

統一通貨ユーロ採用はイタリアの輸出力を弱めたというのは定説であるが、それでも EU からの離脱を真剣に是とするイタリア人は少ないのが実態である。ただし、地中海に飛び出した半島として人道的に海上難民を過去 20 年近く助けてきても、難民問題に関しては EU が基本的に無策で足並みが揃わず、結果的にアフリカ難民がイタリアの小さな町々にも溢れている状況への不満は、相当大きいと言える。この移民問題に強面の「同盟」が優勢（5 月 9 日のある世論調査で支持率 31%）と言われる中、昨年の総選挙に続き従来政党に対する不満票獲得に注力する「五つ星運動」（23%）と、昨年春まで政権の中心だった穏健な中道左派「民主党」（22%）がどこまで「同盟」に太刀打ちできるかが注目されている。

⑤ ハンガリー

ハンガリーのオルバン首相が率いる「フィデス・ハンガリー市民同盟」は 4 月 26 日時点のある世論調査での支持率が 55% と、2 位（11%）以下を大きく引き離している。同党は欧州議会の「与党」EPP に属しているが、オルバン氏はなんと反 EU・反難民を掲げて国内で高い人気を集めている。

こうしたオルバン氏の姿勢に対し、欧州議会は予ねて「EU の基本理念に沿っていない」と EU 法第 7 条に基づく制裁を決議する等して非難していたが、EPP は 3 月について「フィデス」を資格停止処分にした。オルバン氏らが同じ EPP 出身のユンケル欧州委員長に対し、「難民を欧州に引き入れている」等の中傷を行なったことが引き金となった。オルバン氏自身は、中道左派との「大連立」を通じて EPP が左傾化した点こそが問題で、EPP はむしろドイツの AfD やイタリアの「同盟」ら右派との連携を強めるべきだと反論している。

もっとも他の政党は、この内輪もめは、EPP の選挙イメージ戦略の一環ではないかと、疑いの目を向けている。

そうした中、5 月 13 日、米国ワシントンを訪れたオルバン氏を、トランプ大統領が「正しいことをしている（難民防止のためにセルビアとの国境に「壁」を建設した）尊敬すべき指導者だ」と賞賛した。これはまさにトランプ流だったのかもしれないが、欧州では落胆の声も聞こえる。

5. 極右勢力・EU 懐疑派が委員長ポストを取る懸念も。対抗の鍵は投票率向上

欧州議会には連立政権といった枠組みはなく、議案ごとに各会派による是々非々の議決がなされるが、これまでは EPP と S&D の両会派で実質的な大連立が成立し、比較的安定した議会運営が行なわれてきた。しかし、上記のように、今回は EPP と S&D を合わせても大きく過半数を割り込む点が、欧州委員会委員長選出や欧州議会運営の点において懸念されている。その分、移民・難民の受け入れに反対して EU 懐疑的なスタンスをアピールする極右勢力が躍進し、合わせて約 1/3 を占める可能性があるからだ。特に、ECR（欧州保守改革グループ。英保守党ら）、EFDD（自由と直接民主主義のヨーロッパ。英 UKIP、ドイツ AfD ら）、ENF（国家と自由の欧州。フランス国民連合、イタリア同盟ら）といった EU 懐疑派勢力が万一統一会派を結成するようだと、議会運営に影響力を与える勢力になるのではないかと懸念されている。端的に言えば、もし 1/3 近い議席数の会派となれば EPP をしのぐ第 1 党となり、前例的には委員長ポストを得ることになるからだ。

そうした各国の極右政党党首が 4 月 25 日にプラハで合同集会を開き、フランス「国民連合」のル・ペン党首らが氣勢を上げ、イタリア「同盟」を率いるサルビーニ副首相もビデオメッセージを寄せたと伝えられている。5 月 18 日にはミラノでも同様の集会が開かれた。そうした勢いを考えると、英国から（一時的に？）送り込まれる議員の最大数が 反 EU 派（Brexit 党）になりそうな点は、将来の EU 運営に大きな禍根を残す可能性を秘めていることになる。もっとも元来「自国第一」を掲げるナショナリスト政党各党が、国を超えて連携するのは難しいという見方が強い。

先日、パリ・アムステルダム・フランクフルト・ロンドンを TV 会議でつないだ「FUTURE EUROPE」と題した国際会議に、筆者はロンドンの大学の会場で参加した。フランクフルトで登壇した「緑の党」の欧州議会議員は「中道が崩壊すると悲観する必要はなく、「緑の党」等を加えた新たな中道勢力が形成されるということだ」と述べていた。また、フランス・マクロン大統領が率いる「共和国前進」は結党が 2016 年のために欧州議会で議席を持っていないが、今回はかなりの議席を得る見込みである。彼らも「新たな中道勢力」の 1 派といえ、選挙後に何らかの形で ALDE（欧州自由民主同盟グループ）と合流すると言われている。EU 強化のリーダーであるマクロン大統領を加えた「新たな中道勢力」ができるのなら、最近マスコミが煽っているほどの事態にはならず、EU 懐疑派による統一会派さえできなければ、まずまず大丈夫ということだろうか。

そもそも、各国で EU に対して懐疑的な有権者が増えているのかというと、そうではない。欧州議会が先日ロンドンで開催した、投票率向上のためのイベントで示された直近の調査データでは、EU が自国にメリットをもたらしていると考える EU 市民の割合は 68% で、1983 年以来の最高となっている。問題は、そうした回答をした有権者のうち、必ず投票すると答えた割合が 35% に留まり、投票しないが 31%、未定が 32% だったことだとしていた。さらなる問題は、18~24 歳の若い有権者に関しては、全体よりも高い 74% が EU に対して前向きな評価をしているのに、必ず投票すると答えた割合がわずか 21% で、投票しないという回答が 43% に及んだことだそうだと。即ち、極右の「組織票」に対抗するには、若者の投票率を向上させることが鍵だと、強くアピールしていた。

開場前、小雨の降りしきる中、第九（歓喜の歌）¹⁰を演奏するセレモニーと参加者たち
（正面には EU の旗を高く掲げる人物がいた。筆者撮影）



（国際調査チーム）

Email: Matsubara-Hiro@marubeni.com

Tel: +44 (0) 20 7826 8756

（本稿は所属組織の見解ではありません）

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。
- 本資料に掲載している個々の文章、写真、イラストなど(以下「情報」といいます)は、当社の著作物であり、日本の著作権法及びベルヌ条約などの国際条約により、著作権の保護を受けています。個人の私的使用および引用など、著作権法により認められている場合を除き、本資料に掲載している情報を、著作権者に無断で、複製、頒布、改変、翻訳、翻案、公衆送信、送信可能化などすることは著作権法違反となります。

Marubeni Europe plc
Registered in England and Wales: No. 1885084
Registered Office: 95 Gresham Street, London, EC2V 7AB, England
Website: www.europe.marubeni.com

¹⁰ ベートーヴェンの交響曲第 9 番は「欧州賛歌」（いわば EU の国歌）と位置づけられている。